

27 キタノメダカ(ハイブリッド集団) (メダカ科)

兵庫県ランク:B

Oryzias sakaizumii

環境省ランク:VU

種の概要

全長4cm程度。流れの緩い小川や水路などに生息し、動物プランクトンなどを食べる。春から夏にかけて産卵し、早いものはその年の秋に、普通は次の年に産卵する。近年、日本産のメダカはキタノメダカとミナミメダカの2種に分けられた。両種の分布が近接する兵庫県、京都府の但馬、丹後地方には両種の雑種に起源を持つハイブリッド集団が分布する。

写真なし

県内における生息状況及びその他特記事項

県内にはミナミメダカとの交雑に由来すると考えられる個体群が日本海側の円山川と岸田川に分布する。これらはそれぞれ持っているミトコンドリアDNAの型が異なり、円山川流域の個体群はキタノメダカのミトコンドリアDNAを、岸田川の個体群はミナミメダカのミトコンドリアDNAを持つ。近年、放流されたメダカによる地域固有の個体群への遺伝的攪乱が懸念されているが、本県のハイブリッド集団への影響は今のところ不明である。

保護上の留意点

圃場整備に伴う用排水分離や乾田化により、本種が産卵のために水田やため池に遡上する経路を遮断したこと、すなわち河川から横方向に広がる水域ネットワークを崩壊させたことが減少の主な原因と考えられる。オオクチバス等の外来種による捕食の影響も大きい。人為的な移植による遺伝的攪乱も懸念されており、飼育していた産地不明のメダカを放流することは厳に慎みたい。

県内分布

豊岡市、養父市、朝来市、新温泉町

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	
	環境	○
	捕獲	○
特殊性	遺伝	△
	特殊	
学術性	孤立	
	極限	
	限界	○
	希少	

